

## 愛知県の地域文字「杓」「塚」について

愛知県立大学外国語学部  
中国学科4年 白須 大地

### 一

日本の漢字には中国から輸入した漢字の構成要素を借りて造り上げた「国字」<sup>1</sup>と呼ばれる種類の文字が日常で使用されている。文化庁の発表する常用漢字表(平成22年11月30日内閣告示)<sup>2</sup>によれば、「働」「匂」「杓」などが日本で作られた国字として数例登録されている。しかし、ここに挙げられている国字は日本国内で扱われているもののごく一部に過ぎない。実際には、特定地域で慣用的に使用され続けてきたものや他に代替可能な文字がある故に使用頻度が少ないものまで様々な国字が存在している。言葉に方言という地域性があるように、文字も深い地域性を有している。例に挙げれば、新潟県で扱われている「洩(かた・さんずいに写)」は「瀉」の略字として使用されていたが、活版印刷が広まった当時の活字一覧表には正しい「瀉」の字しかなく、全国で「洩」は使用されなくなった。しかし、新潟県では出版物に限らず、日常において頻繁に使用するため今もこの地域では「洩」という字が残っている。このような地域の実情や文化的背景を元に作った文字のことを地域文字という。この地域文字は「地域漢字」「方言字」という名称に属される他、国字研究の第一人者である笹原宏之氏は「方言漢字」と称している。常用漢字が標準語なら、こうした地域文字はいわば方言である。筆者の住む愛知県西部の尾張地方では、標準語にないが「とても」や「ものすごい」という意味で「でら」という言葉を使う。そして同県では、常用漢字表にないが「杓(いり・木偏に入)」「塚(いり・土偏に入)」という地域文字がある。

### 二

「杓」は愛知県西部を中心とする地名に見られる漢字である。名古屋市営地下鉄の「いりなか駅」は「杓中」の訓読みに由来し、名古屋鉄道名古屋本線の「二つ杓駅」、東部丘陵線(通称リニモ)の「杓が池駅」など県民にとっては親しみのある漢字である。『新潮日本語漢字辞典』(2007)によれば「いり。川の水量を調節する門」と記され、JIS第2水準(使用頻度の低い人名・地名に使われる文字)に登録されている国字である。笹原(2013)は「杓」

1 「こくじ【国字】①その国の国語を表記するための文字。また、その国で正式に採用されている文字。②日本の文字。かな。③日本で作られた漢字。」-----『広辞苑第六版』(2008)  
「国字」は様々な意味を持つが、本稿では特に断りのない限り③の意味を指すものとする  
2 文化庁『常用漢字表』

[http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/pdf/joyokanjihyo\\_20101130.pdf](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/pdf/joyokanjihyo_20101130.pdf) (検索日:2017/02/17)

について「江戸時代の初めより、木偏のこの字が用いられ始めている」<sup>3</sup>と述べ、その歴史は数百年に及ぶとされる。また寛文年間(1670年前後)に尾州藩の村勢調査を記録・編纂した『寛文村々覚書』に水門である「杙」の修復や管理状況の記録が残っていることから、この「杙」が尾張地方の村々の間で広く扱われていたことを示している。

「杙」の生い立ちについて笹原(2007)は「これは『いひ』『ひ』の歴史的な表記『械』や『ひ』『とひ』の伝統的な表記『樋』(いわゆる国訓)を元にこの字が造られたことを物語っていると考えられよう。水を入れるために『いり』と呼ばれ、それを表記するために『械』『樋』に改造を加え、旁に『入』を用いたと考えられよう」<sup>4</sup>と述べている。実際に「樋」は現在も使われている河川用語である「樋門」「樋管」という言葉に使われており、これらは「杙」と全く似た構造を持つ。備前樋用水(岡山県倉敷市)や樋俣用水(石川県金沢市)など用水路の名前にも色濃く残っている。「械」についても日本国内での使用は見られないが、『新華字典』(2012)によると“连通蓄水池塘与灌溉沟渠的闸栅。”(貯水池と灌溉用水路をつなぐ水門)と説明している。これらのことから「杙」は「械」「樋」を元に作られたものと思われる。

### 三

「垠」は愛知県東部の地名に見られる漢字である。『新潮日本語漢字辞典』(2007)によれば「いり。堤防の下などに埋めて、水の出入りを調節する管。樋の口。また、水門」とあり、「杙」と同じ意味を指す。笹原(2013)は「木偏ではなく土偏の『垠』が国字として造られ、木偏のそれよりも少し遅れたようだが、書籍や幕府の文書でもよく使われたため、ついに辞書に載るほどになった。」<sup>5</sup>と述べている。ゆえにこの字は正式な文字とされたが、「杙」よりも遅れて生まれたために人々の間に混乱を招くことになった。当時のことについて『寛

**杙之儀も垠、此字を用候様、享保五子年十一月申渡有之。**

**(杙の意味も垠と同じである。)**

**この字【垠】を使うように、享保五子年十一月に申し渡しがあつた)**

**資料：『寛文村々覚書(下)；地方古義』(1966)尾州知多郡覚書帳より**

文村々覚書』では次のような記録がある。

「垠」と「杙」が混在している状況を見かねた幕府はすべてを「垠」に統一しようとしたが、長く慣用的に使われている「杙」を変えることは叶わなかった。

また「垠」の生い立ちについて笹原(2007)は「『垠』は『杙』を、『いせき』の歴史的表記

<sup>3</sup> 笹原宏之(2013)『方言漢字』角川選書 133頁

<sup>4</sup> 笹原宏之(2007)『国字の位相と展開』三省堂 421頁

<sup>5</sup> 笹原宏之(2013)『方言漢字』角川選書 130頁

『堰』から『土編』に改めたものではなかろうか<sup>6</sup>と述べ、河口堰や取水堰といった水をせき止める役割を果たす「堰」から連想し、「杣」を変化させたものとしている。

#### 四

これら「杣」と「塚」は愛知県内の地名において以下のような分布をしている。(図1・表1参照) この分布図を見ると「杣」— 尾張地方(愛知県西部)、「塚」— 三河地方(愛知県東部)という勢力図になっていることがはっきりと分かる。また「いり」はかつての水利事業になくしてはならない存在であり、用水がある所に「いり」があると考えればこの分布図はまた別の側面を見せる。現在県下における大規模水利事業の展開図(図2参照)を俯瞰すると「杣」「塚」の分布図とほぼ一致していることが分かる。それぞれの用水の概要については以下のようなものである。

- ・濃尾用水の受益地(犬山市、一宮市周辺)では、古くは中世から用水が作られ、江戸時代にはその高度な水利技術から多くの用水が作られた。現在は当時の用水を整備しながら尾張北部・西部の農作を下支えしている。
- ・木曾川用水は西尾張、岐阜県美濃地方、三重北部を受益地に持つ用水である。古くから木曾川を取水源とする地域であったが、木曾川の河底低下や地盤沈下が原因となり取水が不可能となった。そのため上流にダムを造る木曾川総合用水事業として戦後に着工が進んだ。
- ・愛知用水は小高い丘の連なる東尾張、そして大きな河川のない知多半島に導水するために作られた。戦後に着工が進み、近現代の水利技術を集約した県下最大規模の用水である。
- ・矢作川用水は天候に恵まれない西三河を潤す用水の一つである。受益地の重なる矢作川総合は昭和後期に着工が進むが、ここには明治期に民間主導で造られた明治用水があった。現在、明治用水は暗渠化(水路を地中に埋設すること)され、国営矢作川総合農業水利事業明治用水地区として存在している。
- ・豊川用水は古くから干害に悩まされ、水利整備の進まなかった東三河に導水された用水である。明治期に造られた小規模な牟呂用水・松原用水を改修しながら、戦後によく国営事業として着工となった。

主に下線部に示すように濃尾用水受益地は歴史が長い一方で、愛知用水・豊川用水・矢作川用水は戦後になって着工が進んだ用水で歴史は比較的短い。古くからある濃尾用水の周辺では「杣」を含む地名が多いこと、その他新しく作られた用水の受益地は「杣」より「塚」が占めていることは古い用水の受益地と「杣」地名が深い関係にあることを示している。

愛知県内の主な用水の年代表(表2参照)は県下の主な用水が着工(もしくは完成)し

---

<sup>6</sup> 笹原宏之(2007)『国字の位相と展開』三省堂 421頁

た年、そして各用水史に「杣」「塚」の文字が使用されていたかどうかを調査しまとめたものである。濃尾用水の主幹線である宮田用水・木津用水など古くに生まれた用水に「杣」の使用が見られ、明治期に入ると明治用水で両字が混用され、同時期の枝下用水で「塚」の使用が見られた。つまり、近世に入り発達した水利事業が盛んになった尾張では「杣」が生まれて使用されるようになり、江戸後期・明治期になると遅れて三河でも水利事業が行われ始め、そこでは正式な文字として「塚」が使用されたということである。しかし、結果は前述の通り「塚」は「杣」にとって代わることはなく、「杣」は尾張地方の多くの地名にその固有の文化を残し、「塚」は近代に使用されただけで現代の河川用語では用いられなかったため三河のいくつかの地名に残るのみとなった。

## 五

「杣」と「塚」は江戸時代に、尾張(愛知県西部)と三河(愛知県東部)の境で入れ替えが起きるなど激しい衝突を繰り返してきた。結果として「杣」がその勢力を維持した形になったが、明治初期には137個<sup>7</sup>(杣…116個 塚…21個・図3参照)あった両字の地名も現在は半減してしまっている。その原因は二つ挙げられる。一つは、従前の用水で重宝されてきた「いり」と近代から現代にかけての高度な用水事業とのイメージの乖離である。「いり」と言えば当時誰もが木で出来た管やそれに付随する水門のようなものをイメージしたに違いない。しかし、現代においてそれらは最新鋭のシステムで管理された導水管や巨大な堰堤に替わっている。この状況を鑑みれば「杣」「塚」の使用を避けるのは不思議なことではない。二つには、行政負担を軽減するために大規模な合併事業や区画整理が行われてきたことである。昭和37年(1962)に制定された住居表示法では難読漢字や地域漢字は平易かつ簡明なものに改めることが奨励され、各地方自治体にはその権限が委譲された。これにより、「杣」「塚」から「入」に変えられる地名も現れた。(表3参照)

本稿では愛知県周辺で使用されている「杣」「塚」について述べたが、これらは全国各地に点在している地域文字全般に当てはまることである。文字は一度生まれてもその必要がなくなれば、過去の産物として切り捨てられる。創っては消え、産み出しては捨てるを繰り返す、人間社会の中で淘汰され本当に必要な字群に洗練されていく。これはヒトが自然のうちに産み出した建設的なシステムと言えるが、これが常に正しいとは言えない。表意文字としてその字に込められた意味の全てを、現代の人間には簡単に知る由がないからである。「杣」「塚」のような地域文字が一義的に捉えられて消えていくことのないように願うばかりである。

---

<sup>7</sup> 日本地名学研究所(1969)『愛知県地名集覧』平凡社より算出

## 参考文献

- 愛知県開拓史研究会(1980)『愛知県開拓史』愛知県
- 愛知県史編さん委員会(1999)『愛知県史』名古屋：愛知県
- 愛知用水公団, 愛知県(1968)『愛知用水史』名古屋：愛知用水公団
- 浅香幸雄(2003)『新版日本分県地図地名総覧』国際地学協会
- 入鹿用水土地改良区(1994)『入鹿池史』入鹿用水土地改良区
- 岡田啓、野口道直、小田切春江(1880)『尾張名所図会』永東書店
- 金井弘夫(1993)『新日本地名索引』アボック社出版局
- 木津用水普通水利組合(1928)『木津用水史』木津用水土地改良区事務所
- 笹原宏之(2013)『方言漢字』角川選書：角川出版
- 笹原宏之(2007)『国字の位相と展開』三省堂
- 日本地名学研究所(1981)『日本歴史地名体系 愛知県の地名』平凡社
- 日本地名学研究所(1969)『愛知県地名集覧』平凡社
- 宮田用水普通水利組合(1944)『宮田用水史』宮田用水普通水利組合
- 明治用水百年史編さん委員会(1979)『明治用水百年史』明治用水土地改良区
- 明治用水土地改良区(2009)『明治用水』明治用水土地改良区

図1 愛知県内の地名にある「杵」「塚」分布図（現在）

「杵」… 58個 「塚」… 19個

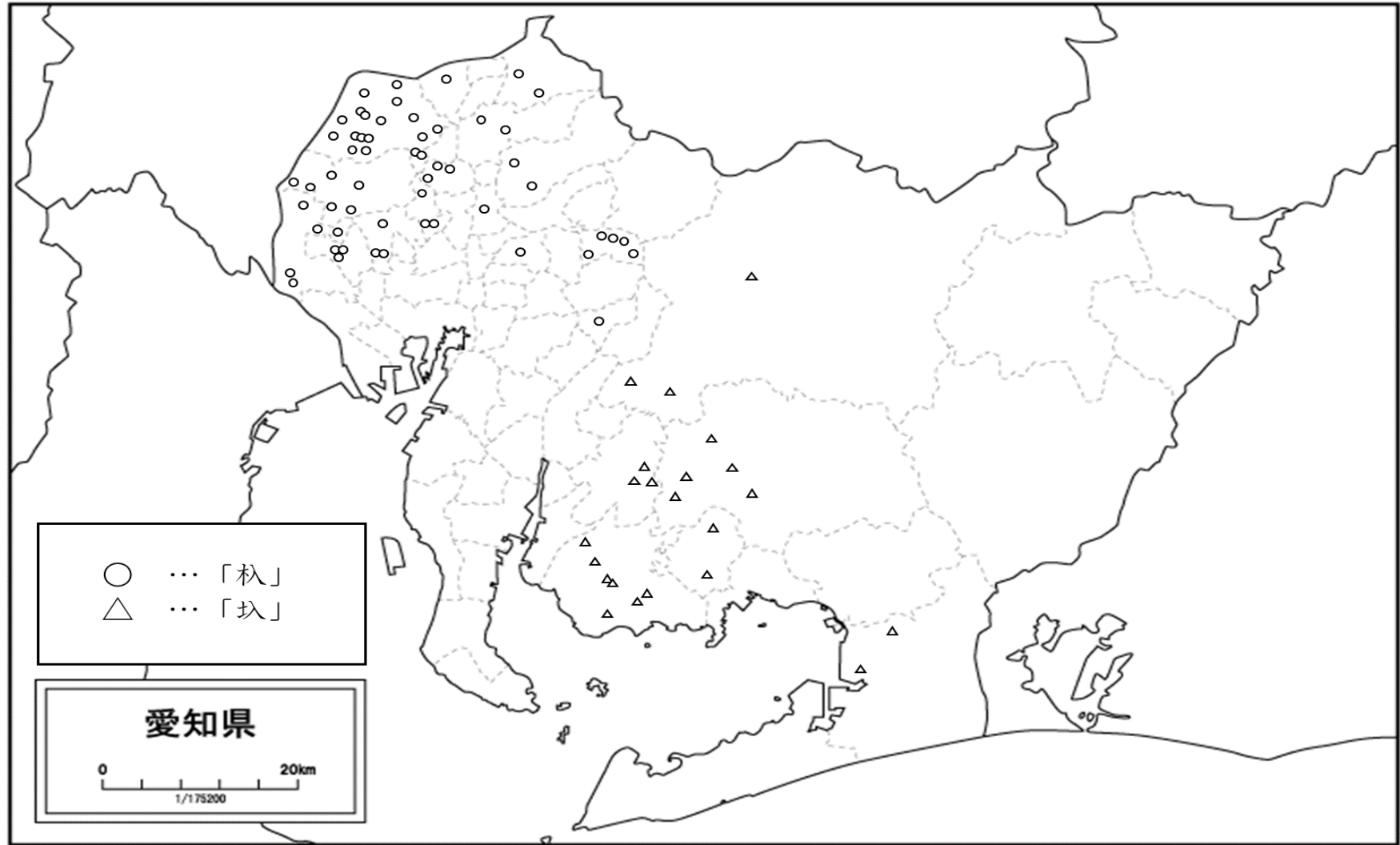


図2 愛知県内の大規模農業水利事業図

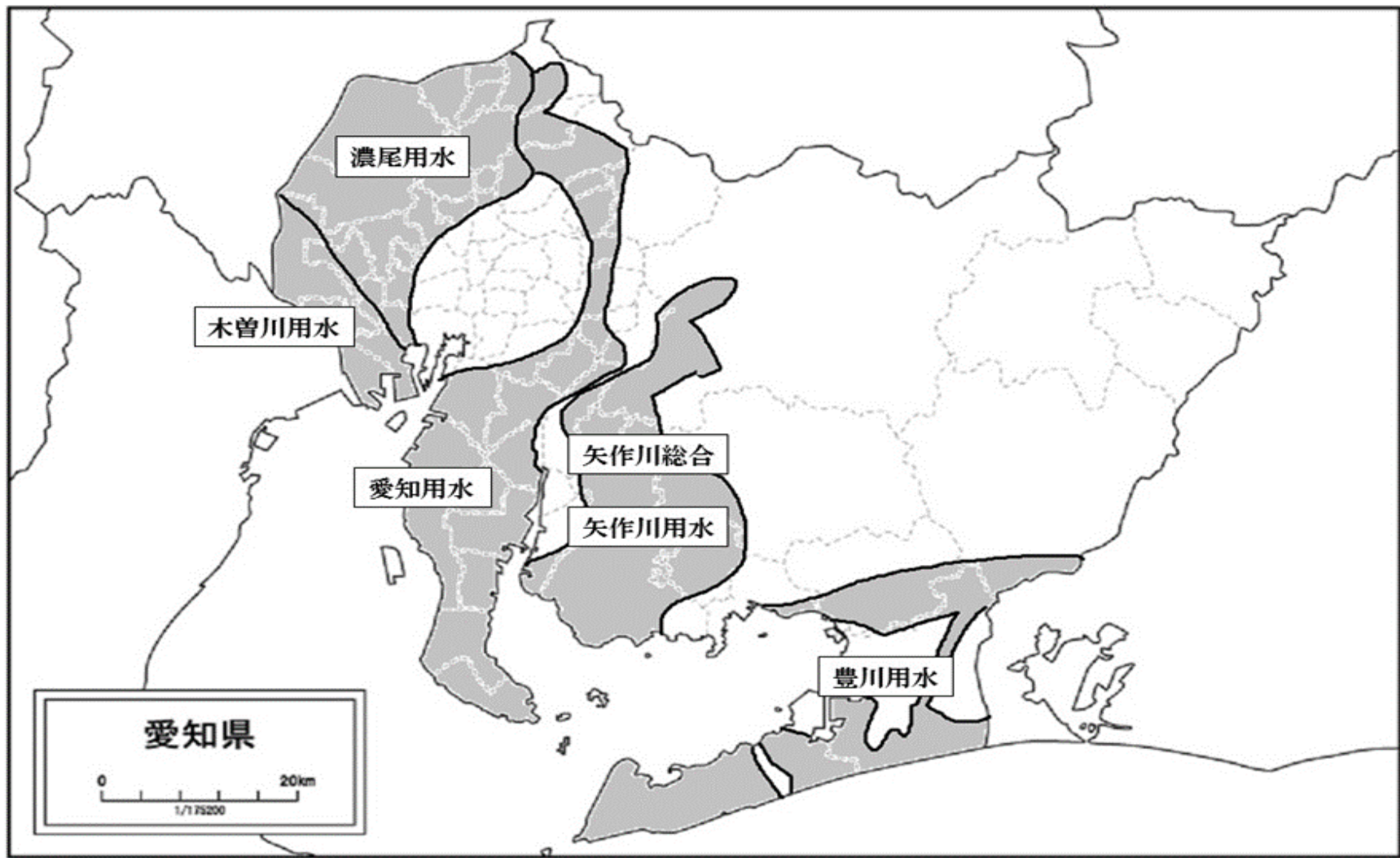


図3 愛知県内の地名にある「杵」「塚」分布図（明治15年）

「杵」… 116個 「塚」… 21個

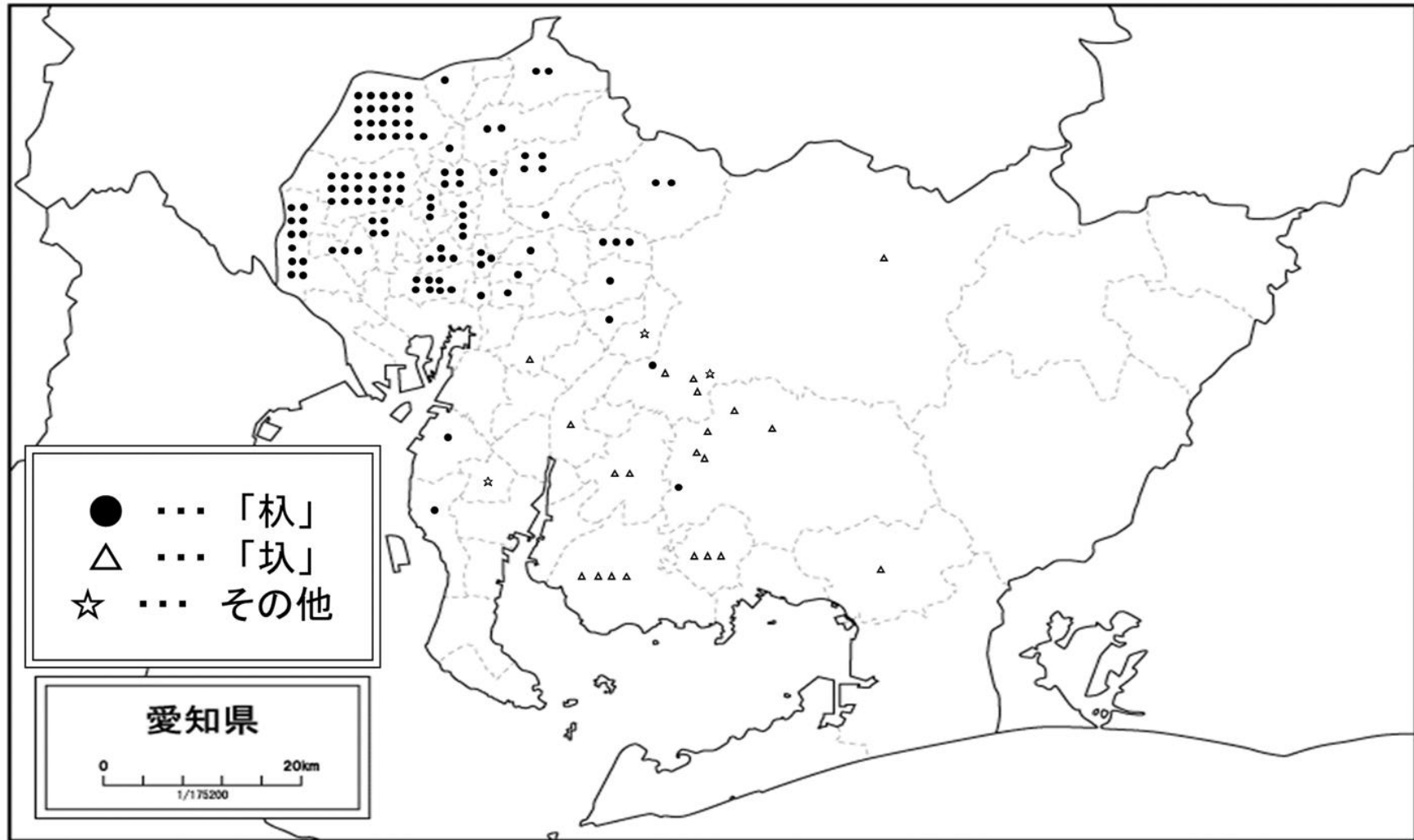




表1 愛知県内の「杵」「杵」を含む地名（現在）

| 市 / 群 | 区 / 町 | 大字 / 字  | 読み方     |
|-------|-------|---------|---------|
| 一宮市   | 杵町    |         | わくいり    |
|       | 萩原町   | 林野中杵    | なかいり    |
|       | 丹陽町   | 伝法寺中杵   | なかいり    |
|       |       | 伝法寺杵先   | いりさき    |
|       |       | 三ツ井二ツ杵  | ふたついり   |
|       | 大和町   | 苧安賀上西の杵 | かみにしのいり |
|       |       | 苧安賀中西之杵 | なかにしのいり |
|       |       | 苧安賀下西の杵 | しもにしのいり |
|       | ***   | 時之島杵先   | いりさき    |
|       | 浅井町   | 大野杵先    | いりさき    |
|       | ***   | 定水寺杵ノ口  | いりのくち   |
|       | 千秋町   | 町屋水杵    | みずいり    |
|       | ***   | 東浅井杵先   | いりさき    |
|       | 木曾川町  | 黒田杵ノ戸   | いりのと    |
|       |       | 内割田杵ノ戸南 | いりのとみなみ |
|       | ***   | 玉野杵ノ戸   | いりのと    |
|       | ***   | 西五城杵先南  | いりさきみなみ |
|       | ***   | 開明杵東郭   | いりひがしとん |
|       | ***   | 開明杵西郭   | いりにしとん  |
|       | ***   | 開明杵先    | いりさき    |
| 春日井市  | 四ツ家町  | 二ツ杵     | ふたついり   |
|       | 杵ヶ島町  |         | いりがしま   |
| 稲沢市   | 氷室町   | 杵口      | いりくち    |
|       | 平和町   | 西光坊杵上   | いりかみ    |
|       | 片原一色町 | 三間杵     | さんげんいり  |
|       | 祖父江町  | 甲新田杵南   | いりみなみ   |
|       |       | 山崎杵ノ戸   | いりのと    |
| 神明津元杵 |       | もといり    |         |
| 江南市   | 小杵町   |         | おいり     |
| あま市   | 七宝町   | 秋竹杵先    | いりさき    |
|       | ***   | 小橋方杵之口  | いりのくち   |
|       | ***   | 花正杵込    | いりこみ    |
| 愛西市   | 諏訪町   | 中杵      | なかいり    |

|       |        |           |           |
|-------|--------|-----------|-----------|
|       | 町方町    | 大杵先       | おおいりさき    |
|       | 西川端町   | 杵ノ戸       | いりのと      |
|       | 立田町    | 杵先        | いりさき      |
|       | 森川町    | 杵口        | いりくち      |
| 津島市   | 牛田町    | 杵先        | いりさき      |
|       | 杵前町    |           | いりまえ      |
|       | 唐臼町    | 中杵        | なかいり      |
| 犬山市   | ***    | 前原桶杵      | おけいり      |
|       | ***    | 杵下        | いりした      |
| 清須市   | 西枇杷島町  | 北二ツ杵      | きたふたつり    |
|       |        | 南二ツ杵      | みなみふたつり   |
|       | ***    | 春日杵前      | いりまえ      |
| 北名古屋市 | ***    | 徳重杵ノ口     | いりのくち     |
|       | ***    | 徳重与八杵     | よはちいり     |
|       | ***    | 宇福寺中杵     | なかいり      |
| 小牧市   | ***    | 東田中大杵     | おおいり      |
|       | ***    | 河内屋新田上岩倉杵 | かみいわくらいいり |
| 長久手市  | ***    | 杵ケ池       | いりがいけ     |
|       | ***    | 杵ケ根       | いりがね      |
|       | ***    | 杵ノ洞       | いりのほら     |
|       | ***    | 松杵        | まついり      |
|       | ***    | 溝之杵       | みぞのいり     |
| 愛知郡   | 東郷町    | 春木中ノ杵     | なかのいり     |
| 名古屋市  | 千種区田代町 | 瓶杵        | かめいり      |
|       | 西区稲生町  | 杵先        | いりさき      |
| 岡崎市   | 鴨田町    | 山ノ塚       | やまのいり     |
|       | 赤浜町    | 塚ノ口       | いりのくち     |
|       | 明大寺町   | 大塚        | おおいり      |
|       |        | 宮の塚       | みやのいり     |
|       | 渡町     | 塚口        | いりくち      |
| 額田郡   | 幸田町    | 坂崎洞ヶ塚     | ほらがいり     |
|       |        | 荻塚        | いり        |
| 西尾市   | 吉良町    | 友国道ヶ塚     | どうがいり     |
|       |        | 饗庭塚ノ口     | いりのくち     |
|       | 上町     | 塚下        | いりした      |

|     |      |       |         |
|-----|------|-------|---------|
|     | 細池町  | 大塚下   | おおいりした  |
| 安城市 | 河野町  | 塚ノ下   | いりのした   |
|     | 安城町  | 塚上    | いりかみ    |
|     |      | 小塚    | こいり     |
| 豊田市 | 永覚町  | 百間塚   | ひゃくげんいり |
|     | 東広瀬町 | 塚池下   | いりいけした  |
|     | 前林町  | 立塚    | たちいり    |
| 豊橋市 | 牟呂町  | 東明治塚裏 | いりうら    |
|     | 下地町  | 大塚    | おおいり    |

注) \*\*\*...町名なし

図 1 / 表 1 資料 :

『新日本地名索引』(アボック社出版局 : 1993)

『新版日本分県地図地名総覧』(国際地学協会 : 2003)

<http://www.its-mo.com/> 『ゼンリンいつもNAVI』 を元に作成

図 2 資料 :

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/nochi-keikaku/0000022877.html> を元に作成

愛知県庁 HP 農地計画課 (検索日 : 2016/07/20)

図 3 資料 :

『愛知県地名集覧』(平凡社 : 1969) を元に作成

注 1 : それぞれの記号は現県政の区画で数え、その総数を示したものである。

また、同市に「杵」「塚」両方ある豊田市・岡崎市は記号を正確な位置に付す。

注 2 : ☆印のその他については「杵 (いり・手偏に入)」「塚 (いり・口編に入)」の二字が確認され「いり」という振り仮名であったため図中に記した。

表2 愛知県内の主な用水の年代表

| 年代       | 用水完成 / 着工 | 備考         | 「いり」に関する記述の有無 |
|----------|-----------|------------|---------------|
| 11世紀初め*1 | 大江用水完成    | のちに宮田用水に統合 |               |
| 1608年    | 般若用水完成    | のちに宮田用水に統合 |               |
|          | 宮田用水着工    | 現在の濃尾用水    | 「杓」あり         |
| 1617年    | 奥村用水完成    | のちに宮田用水に統合 |               |
| 1633年    | 木津用水着工    | 現在の濃尾用水    | 「杓」あり         |
|          | 入鹿用水着工    | 現在の濃尾用水    | 「杓」あり         |
| 1791年    | 新般若用水完成   | のちに宮田用水に統合 |               |
| 1879年    | 明治用水着工    | 現在の矢作川用水   | 「杓」「塚」あり      |
| 1884年    | 枝下用水着工    | 現在の矢作川用水   | 「塚」あり         |
| 1888年    | 牟呂・松原用水着工 | 現在の豊川用水    | なし            |
| 1957年    | 愛知用水着工    |            | なし            |
| 1963年    | 矢作川用水着工   |            | なし            |
| 1968年    | 豊川用水完成    |            | なし            |

\*1 諸説あり

表2資料：

『日本歴史地名体系 愛知県の地名』（平凡社：1981）、

『愛知県史』（愛知県史編さん委員会：1999）、

『愛知用水史』（愛知用水公団,愛知県：1968）を元に作成

表3 「杵→入」「塚→入」の変化

| 明治     |      |   | 現在      |      |
|--------|------|---|---------|------|
| 海東郡勝幡村 | 五俵杵  | → | 愛西市     | 五俵入  |
| 海東群今村  | 掛杵   | → | 蟹江町     | 掛入   |
| 愛知郡小碓村 | 杵場   | → | 名古屋市熱田区 | 入場   |
| 額田郡奥殿村 | 釜ヶ塚  | → | 岡崎市     | 釜ヶ入  |
| 額田郡岩中村 | 投塚   | → | 岡崎市     | 投入   |
| 額田郡坂崎村 | 皇子ヶ塚 | → | 岡崎市     | 王子ヶ入 |
| 額田郡坂崎村 | 雀ヶ塚  | → | 額田郡幸田町  | 雀ヶ入  |
| 額田郡坂崎村 | 洞ヶ塚  | → | 額田郡幸田町  | 洞ヶ入  |
| 碧海郡東境村 | 塚ヶ原  | → | 刈谷市     | 入ヶ原  |

表3資料：

『愛知県地名集覧』（平凡社：1969）

<http://www.its-mo.com/> 『ゼンリンいつもNAVI』 を元に作成